

平成 19 年度 教師海外研修(派遣国:マレーシア)実践報告書

1. タイトル スラマップタン マレーシア ～オランウータンのふるさとを守る～

2. 氏名 長井 久実

学校名 大阪市立清水小学校 担当教科 全教科

3. 実践教科 道徳・生活科・総合的な学習の時間
時間数 1年7時間・4年1時間

4. 対象生徒・学年 1年生・4年生 対象人数 1年65名・4年81名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

○1年生

- ・世界には、いろいろな国があり、国によって生活や文化に違いがあることを知る。
主に、マレーシアを取り上げ、豊かな自然や人々の暮らしについて知る。
- ・熱帯雨林の減少について知り、環境保全に向けて自分の生活を見直す態度を育む。

○4年生

- ・マレーシアの生活・文化に親しみ、自然とともに生きる人々の暮らしについて知る。

(2) 授業の構成案

○1年生

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ: 世界にはどんな国があるの? ねらい: 世界の国々に対して興味をもつ。	・日本以外のさまざまな国を挙げ、地図や図書資料を用いて、地域によって気候や言葉、食べ物や服装が違うことを紹介する。 ・世界のあいさつ ・ハローソング	・世界地図 ・にんげん「こんにちは」 ・CD ・図書資料 ・バーチャル地球儀ソフト
2限目 テーマ: マレーシアってどんな国? ねらい: いろいろな国の中からマレーシアについて知り親しみをもつ。	・スライドでマレーシアの位置や生活・文化の違いを説明する。 ・マレーシアボックス	・写真 ・感想カード ・マレーシアで収集した物(セパタクロー、サロン、トダウン、ニッパやし細工、パチンコ、DVD、漫画など)
3・4限目 テーマ: どんな動物や昆虫がいるのかな ねらい: マレーシアの多様な生物について知る。	・動物あてクイズ ・たくさんの動物がマレーシアにいることをスライドを用いて説明する。 ・いろいろな動物の中から、特にオランウータンについてその生態を知る。 ・マレーシアの昆虫をスライドや標本で紹介する。 ・昆虫クイズ	・ワークシート ・写真・写真集 ・オランウータンのぬいぐるみ ・DVD ・感想カード ・昆虫標本 ・図書資料

5限目 テーマ: オランウータンのふるさと ねらい: 熱帯雨林は、たくさんの生物がすむ大切な家であることを知る。人間にとっても熱帯雨林は重要な働きをしていることを知る。	・植物もまた多様であることや熱帯雨林の働きについてスライドを用いて説明する。	・写真 ・森林についての図書資料 ・感想カード
6限目 テーマ: 森が泣いている ねらい: 森林減少の現状について知る。私たちの生活がマレーシアとつながっていることを知る。	・マレーシア絵本読み聞かせ ・コジュ君の気持ちを想像して吹き出しに書く。 ・木を使って作られているもの探し	・絵本(「Kojiu and the Banana tree in the Lower Kinabatangan」) ・オランウータンのぬいぐるみ ・写真資料 ・ワークシート
7限目 テーマ: 森を守るために私たちができること ねらい: 森林保全のために、自分たちにできることを考える。	・自分たちの生活を振り返り、森を守るためにできることはないか話し合う。 ・今日からできることを一つ決めカードに書き発表する。 ・教室に掲示し、振り返りの時間を持つ。	・カード

○4年生

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ:ダガット村の生活を知ろう ねらい:ダガット村での生活を知り、自分たちとの生活の違いや村の人々の思いを考える。	・マレーシアで収集した物や写真を用いて、スライドで説明をする。	・バーチャル地球儀ソフト ・パワーポイント ・写真 ・感想カード

6. 授業実践の詳細

○1年生

1限目:世界にはどんな国があるの？

まず始めに、子どもたちに知っている国の名前を尋ねた。思ったより、たくさんの国名が挙げられた。(フランス・スペイン・インド・アメリカ・中国・ブラジル・ネパール・エジプト・オーストラリアなど)テレビで見た、聞いたという意見が多かった。

その後、「こんにちは」を学習した。写真を見て気づくことをあげていき、日本との違いに気づかせていった。「服装が違う」「言葉が違う」「肌の色が違う」などすぐに見つけ、その違いに興味をもったようだった。最後に、「いろいろな国の人と仲良くするためにまずすること」として、各国のあいさつを紹介した。子どもたちは、「難しいなあ」といいながらも、覚えやすいよう歌にしたものを CD でかけると、楽しんで歌っていた。

2限目:マレーシアってどんな国？

2限目では、マレーシアの位置、日本との違いを「気候」「言葉」「食べ物」の3点に絞って紹介した。日本のように四季がなく、1年中暑いことや手を使ってご飯を食べることなどに驚いていた。後半では、箱の中にセパタクローのボールやサロン、ムスリムの人がかぶるスカーフ、おもちゃなどを入れ、何に使うものかあてるゲームをした。先に紹介したスライドの中に出てきていたのでほとんど当てることができた。スカー

フを巻いたり、サロンを試着したり、セパタクローに挑戦したり、じかに手で触れることでぐっと身近に感じられた様子だった。また、マレーシア語版の「ポケットモンスター」の DVD や「名探偵コナン」の漫画を見て、自分たちと同じものをマレーシアの子どもたちも見ていると知ってさらに親近感をもったようだった。

・マレーシアという国があると知らなかった。・雨がシャワーみたいに降るのがすごかった。・スイカの形が違う。マレーシアにスイカがあるとは知らなかった。・サロン着てみたい。マレーシア行きたい。日本からずっと離れてるんだね。・マレーシアボックスにいろいろなものが入っていた。

3・4限目:どんな動物や昆虫がいるのかな

3限目では、マレーシアの動物について学習した。○×クイズで、マレーシアにいる動物を当てるようにした。出てきた動物が、全部○、つまりすべてマレーシアにいることがわかると、「えーっ」の音が教室に響いた。子どもたちがよく知っているゾウやトラがマレーシアにいること、オランウータンが有名なことなどが特に印象に残ったようだ。

最後にオランウータンのぬいぐるみを出し、子どもたちに紹介した。「コジュ君です。よろしく」とあいさつすると、「かわいい！」とみんなが握手をしにきた。給食のときには、「あの子(コジュ君)のご飯は？」と心配したり、休み時間になると話しかけにきたり。覚えてたのマレーシア語で「スラムツパギ」と朝のあいさつをしている子もいた。コジュ君はすっかり2組の仲間となり、天王寺動物園への遠足のときには、「いっしょに行こう。」といて連れて行き、動物園については「コジュ君の仲間おるかな。」と真っ先にオランウータンをさがしていた。

・マレーシアにいっぱい動物がいたなんて知らなかった。・マレーシアにオランウータンがいると初めて知った。・テングザルの鼻がすごく長かった。・いろんな動物のことが知れてよかった。・オランウータンがかっこよかった。・コジュ君がかっこよかった。

4限目は、いろいろな昆虫を見せて、その多様性に気づかせるようにした。スライドで大きく映し出される虫を見て「あれは、○○や！」と口々に言ったり、見たことのない虫が出てきたときは、「もう1回見せて」と言ったり、興味津々だった。特に標本は、「これほんまに本物？」と目を丸くしていた。「虫のかくれんぼ」という題で擬態生物を紹介した。まるで木の枝のように、枯葉のように見える虫を不思議がっていた。虫に詳しい子がなぜ木や花に似せているのかを説明したのを聞いて、「なるほど」と納得し、生き物たちの工夫に感心していた。

・昆虫がいっぱい。知らない虫がいっぱいいてびっくりしました。・すごい昆虫を見ました。その中で気に入ったのは、ちょうちょです。・セミが大きくてびっくりしました。・ハナカマキリがきれいだった。・ほくもマレーシアに行っているような昆虫を見たいです。

5限目: オランウータンのふるさと

そして5限目では、これまで見てきた動物や昆虫が、すべて熱帯雨林という森にすんでいることを学んだ。森で暮らすオランウータンの様子を映像で見たり、植物もまた多様であることを写真で見たりした。「熱帯雨林は生き物たちの家」とまとめ、最後に森は人間にとっても大切な働きをしていることも付け加えた。初めて知ることはばかりで、森の働きについては、少し難しい面もあったが、子どもたちは一生懸命聞いていた。

・熱帯雨林には木がいっぱいあってびっくりしました。・いきものみんなの力ががんばっているんだなと思いました。・木や草が酸素を作り出して生きていることに気づいた。木にありがとう。・コジュ君のふるさはすごかった。・ラフレンシア大きくてびっくりした。・またコジュ君の勉強したいです。

6限目:森が泣いている

6限目で、再びコジュ君を登場させた。授業が始まるまで、隠しておいたので、朝から「コジュ君どうしたん？帰ったん？」と子どもたちは心配そうだった。時間になり、「実は、コジュ君困ってんねん…。」と導入に手で顔を覆ったコジュ君を袋から出した。そして、『コジュとバナナの木』という絵本を読み聞かせた。これは、森で家族と幸せに暮らしていたオランウータンの子ども「コジュ」が、人間に木を切り倒され、一人ぼっちになり住む場所を失うという話である。結末では、レンジャーに助けられ別の森へ行くことになるのだが、授業では、森を追われる場面までを見せた。

普段から絵本の読み聞かせが好きな子どもたちは、いつもにも増して真剣に聞いていた。お話の後、「コジュ君がもし、人間の言葉を話したらなんといっているだろう。」と吹き出しにコジュ君の気持ちを書かせた。一回読んだだけだったが、思いをしっかりと読み取れていたように思う。絵本だけでなく、実際の写真を見せ、現実に行っていることだと説明した。マレーシアで切られた木の多くが、日本へ来ていたことにも触れ、木でできているもの探しをした。

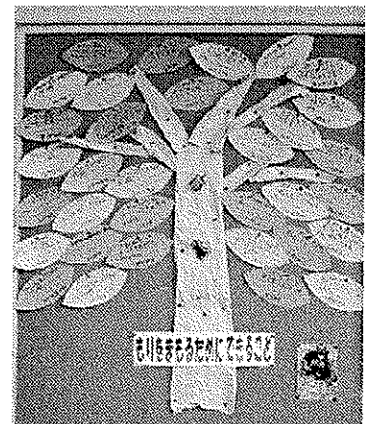
コジュ君がもし人間の言葉を話したら…

- ・もう1回お母さんと友達に会いたいよ。ひとりぼっちじゃさみしいよ。
- ・お母さんもないし木もないし、バナナもないし、お友達もないし、そうしたらいいんだろう。・なんで木を倒すの？お母さんどこにいるの？
- ・どうしてこんなことするの？森がないとみんな困るよ。もうやめて。こんなことしないで。

7限目:森を守るために私たちができること

前時の最後に、「森がこれ以上減っていかないように、どうしたらいいだろう。何か自分たちでできることはないかな」と問いかけた。それぞれが、自分で考えてきたこと、家族と相談して考えたことなどを発表しあった。「木を植える」「募金をする」「日本の木だけを使う」「木でできたものを無駄にしない」などいろいろな意見があった。もちろんわからなかった子もいたので、たくさん集まっていた落とし物の鉛筆や傷ついて使えなくなった机やイスを見せて、自分の身の回りに目を向けて考えるようにした。意見を出し合った中から「今、自分ができること」を一つずつ紙に書き7限目を終えた。

- ・本やノートや木でできたものは使えなくなるまで捨てないようにします。
- ・これからは、木でできたものを大切に使います。
- ・机やイスを大事にします。・物を大事にします。
- ・森のことをもっと勉強します。
- ・鉛筆を最後まで大事に使います。
- ・紙の裏も使うようにします。・ノートを大事に使います。
- ・おもちゃを大切に使います。・バットを大切に使います。
- ・すぐ新しい紙をもらわないようにします。
- ・鉛筆や消しゴムを無駄に使わないようにします。
- ・紙をちょっと書いてただけですぐにすてないようにします。



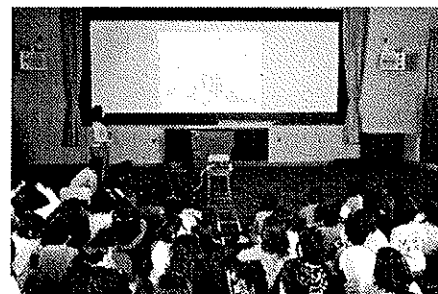
○4年生

1限目:ダガット村の生活

マレーシアという国の名前を聞いたことがある児童は、半数以上いた。始めに、マレーシアの気候や自然が豊かな国の様子を説明した。1年中夏であることや珍しい昆虫に驚いていた。

その後は、ダガット村に焦点をあて、自然とともに生きる人々の生活について紹介していった。水道やガスがないこと、食事や洗濯の仕方など、村での生活は、日本の生活とずいぶん違うことに気づき、関心を寄せて話を聞いていた。自分たちと同じくらいの年齢の子どもたちの生活にも興味をもっていた。最後に、森林減少によって、森と川に生きる村の人々の生活が脅かされつつあることにも触れた。

子どもたちの感想を見ると、たいへんだらうと想像していたダガット村の生活が、村の人へのインタビューで「毎日が楽しい」と答えていたことや村の人々の笑顔が印象深いようだった。



・しんどいだろうなあと思っていたけど、村の人が楽しいと言っていたのがすごいと思った。・村の人は、村が大好きなんだな。・笑顔があふれていていい村だと思った。・村の生活は楽しそう。自然がいっぱいあっていろいろな生き物がいて、日本とはぜんぜん違う暮らしだった。・ご飯を手で食べると聞いてびっくりした。・村の人たちは、子どもも大人も笑顔が村中に広がっていた。・毎日楽しいと聞いて行ってみたいくなった。・マレーシアへ行って自分の目でみてみたい。・フィリピンもずっと夏だから暑い。フィリピンにもガスや水道、電気のない家がある。・日本の人は、当たり前のようにガスや水道を使っているなど思った。・ダガット村の森や川がなくなるのはいや。・木を切るのはやめてほしい。・地球温暖化の原因になるのだったら、どうしたらいいのかたくさん知りたい。・どうにか環境を守れたらいいのにな。

7. 所感・反省点・改善策

1年生の子どもたちは、たいへん素直で、何に対しても興味をもって取り組んでいた。動物園に行ったときもオランウータンのおりの前では、「マレーシアから来たんやなあ」と学習を思い出したり、ちょうど目を覆っておりの隅に座っていたので「さみしいかなあ、帰りたいかなあ」と言ったり、子どもたちなりにいろいろなことを感じていたように思う。森林が減少していることを知ってから、鉛筆が落ちているのを見て「大切な森が…」と今までなら気に留めなかったことも、気がつくようになった子もいる。少しずつではあるが、物を大切にしようという態度が芽生えてきたように見える。

パーム油については、6限目に、森林の減少は、木材のために伐採されたためだけではなく、パームやしのプランテーションを作るためにも森林が切り開かれたことを話した。ただ、1年生には、理解しにくい面もあったようで「知る」にとどまった。また、改めて「パーム油」について焦点を当て、考える機会を設けたいと思う。

4年生では、自分たちとはまったく違った生活が世界にはあるということ、自然を大切にして、森や川、生き物たちとともに暮らす人々がいるということを知ってほしいと思い取り組んだ。初めて見る村の様子や生活に驚きながら、子どもたちは、最後まで興味をもってきていた。

1時間の中にたくさんのことを詰め込みすぎ、説明不足のところもあったが、世界の人々の暮らしや森林減少・環境破壊などについて関心をもつきっかけになればうれしく思う。

実践を通して、日本との「違い」も「同じ」も柔軟に受け入れられる子どもたちには感心し、逆に学ばされることも多かった。また、新しく知ることに関心いっぴいの目で集中して聞く姿には、子どもたちのもつ「学ぼう」とする力を感じた。1年生には難しすぎるかと思われる課題も子どもたちなりに一生懸命考えていた。

今回だけの実践に終わることなく、これからもいろいろな国や地域の文化、人々の生活について知り、関心をもてるよう指導を続けていきたい。また、自分たちの生活見つめ直し、身近な人とのつながりを大事にすることが、世界とのつながりになっていくことも伝えていきたい。

8. 参考資料

- ・「せかいのこつきえほん」 わらべきみか ひさかたチャイルド 2004
- ・「世界各地のくらし5 マレーシアのくらし」渡辺一夫 ポプラ社 1995
- ・「Kojiu and the Banana tree in the Lower Kinabatangan」 Ruth Lim WWF-Malaysia 2004
- ・「熱帯雨林の生きもの(クローズアップ図鑑 3)F.グリーナウェイ 岩波書店 1993
- ・「やさしい図解・地球があぶない 4 森はどのように地球を守っているか」
トニー・ヘアー 偕成社 1992
- ・「地球をささえる熱帯雨林 1 熱帯雨林の植物」エドワード・パーカー 鈴木出版 2003
- ・「地球をささえる熱帯雨林 2 熱帯雨林のほにゆう類」エドワード・パーカー 鈴木出版 2003
- ・「地球をささえる熱帯雨林 3 熱帯雨林の鳥類」エドワード・パーカー 鈴木出版 2003
- ・「地球をささえる熱帯雨林 4 熱帯雨林のは虫類・両生類」エドワード・パーカー 鈴木出版 2003
- ・「地球をささえる熱帯雨林 5 熱帯雨林の昆虫・クモ」エドワード・パーカー 鈴木出版 2003
- ・「地球をささえる熱帯雨林 6 熱帯雨林に生きる人々」エドワード・パーカー 鈴木出版 2003
- ・「ボルネオの熱帯雨林ー生命のふるさとー」横塚真己人 福音館書店 2004
- ・「行ってみたいなあんな国こんな国① アジア」東 菜奈 岩崎書店 1999
- ・「国際理解に役立つ 世界の衣食住 アジアの民族衣装」石山 彰 小峰書店 2004

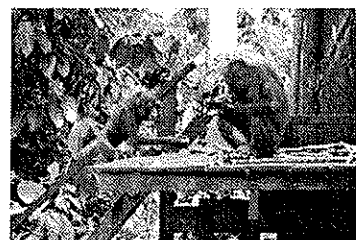
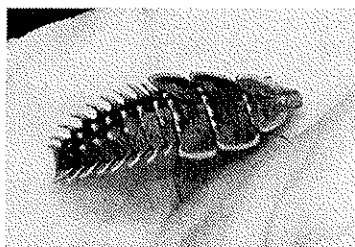
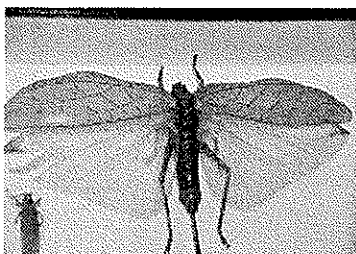
写真資料

○1年生

2限目「マレーシアってどんな国？」から



3・4限目「どんな動物や昆虫がいるのかな」から





○4年生
1限目「ダガット村の生活」から

